㊶那覇港浦添ふ頭地区臨港道路浦添線整備事業

授賞機関　内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所

キーワード　環境保全、橋梁化、埋立面積縮小、親水護岸

全建賞審査委員会の評価ポイント

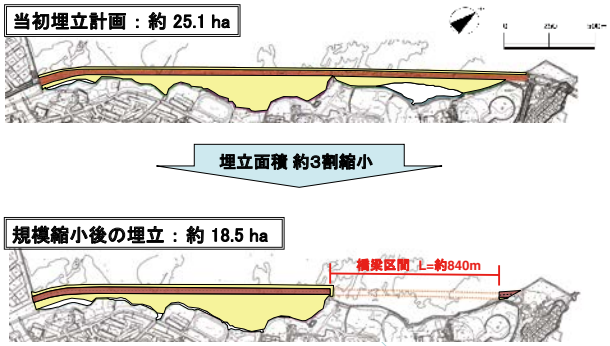
住民、企業、学識者と協働して進めた臨港道路の整備。当初計画では、全区間を埋立方式としていたが、地元からの環境保全要望等を受け、一部区間を橋梁方式へと変更し、埋立面積を縮小するとともに、橋梁も自然に配慮した形式を選定するなど、自然環境をより身近に感じることができるよう親水性へ配慮した点が評価された。

1. はじめに

那覇港浦添ふ頭地区臨港道路浦添線は、沖縄県の拠点港である那覇港から沖縄本島中北部方面への物流・人流を強化し、経済および産業活動を支援することを目的とし整備を行い、平成30年３月に開通した。本道路と周辺道路とのネットワークを形成することにより沖縄県中南部の渋滞緩和や地域の活性化にも寄与している。

2. 事業の概要

臨港道路浦添線は当初、全区間2.5kmを埋立方式での整備として計画されていたが、当該区間は地元市民等多くの方々に利用されており、地元浦添市および自然環境学習等の活動を行う地元小・中学校や里浜づくり活動団体等から自然海岸の環境保全の要望が数多く寄せられた。さらに埋立に伴う環境影響評価準備書に対する知事意見において、自然海岸の保全、地元の人々に親しまれている場所への配慮など重要性を考慮し橋梁化も含めた検討を行うべきという意見が示された。



埋立面積の縮小

このような背景のもと、橋梁化の検討を行い、一部区間の北側約840mを埋立方式から橋梁方式へと変更し、貴重な自然海岸とサンゴ礁のイノー(礁池)の保全を図った。これにより、埋立面積も当初計画の約25.1haから約18.5haへと縮小された。

橋梁構造については、経済性、施工性、維持管理、景観等の比較検討を行い、橋脚基数が少なく自然環境の保全に有意な11径間連続PC箱桁を選定した。また、自然海浜の改変部となる橋脚の基礎構造についても配慮し、基礎の投影面積が小さく、施工時の仮締切工を兼用できる鋼管矢板井筒基礎としている。

3. 事業の成果

臨港道路の整備に当たっては、地元からの要望により、水域へのアクセスを考慮し親水性の護岸を設置した結果、地元で実施している環境学習の安全性にも寄与している。また、背後の大型商業施設利用客がバスの待ち時間に海辺を散策したり、周辺地域からも多数の人が潮干狩りに訪れる等活用されている。

親水護岸活用状況

さらに、本道路は浦添市が実施する開発と連携し整備したものであり、道路に隣接する埋立地には店舗面積約６万㎡の県内有数大型商業施設が開業し、周辺地域のみならずクルーズ船で訪れる海外からの観光客でにぎわっている。

4. おわりに

沖縄県の観光客数は2019年に初めて1,000万人を超え、那覇港におけるクルーズ船の寄港数も260回と全国最多となり、今後もさらなる増加が見込まれている。本道路の開通は、国内外旅客の移動円滑化に寄与するとともに、沖縄県の経済及び産業を支援し、地域の活性化につながるものと期待される。

賛助会員　川田建設㈱、五洋建設㈱、東洋建設㈱、三井住友建設㈱、みらい建設工業㈱、㈱ピーエス三菱、パシフィックコンサルタンツ㈱、㈱富士ピー・エス